

タイトル 「研究発表Ⅱ」

講演者 P T A会長 山田 太一

学校名 県立百合丘高等学校 P T A

講演テーマまたは研究テーマ 「百合丘高校が目指す「新しいP T A活動」」

### 1 はじめに

P T Aを取り巻く環境の変化は目覚ましく、コロナ禍での各イベントの中止、働き方改革に関心が向けられて以降、活動の負担軽減、効率化が話題となっています。私達も、いろいろな課題を解決するために、「新しいP T A活動」を模索し、悪戦苦闘しています。そんな活動を紹介することで、みなさんのP T A活動の一助になればと思い、今回の発表をさせていただきます。

### 2 百合丘高校で・・・今のP T Aの課題

P T Aが本当に必要か、任意の団体か・・・といった議論は一段落したものの小さいながらも新たな課題が話題となってきました。

- ・「リーダーよろしく！」では誰も手を上げない
- ・「今までやってきたから！」では続かない
- ・「これ喜ぶよね！」では喜んでもらえない

### 3 「リーダーよろしく！」では誰も手を上げない

活動に参加していただける会員は多いのですが、会長、委員長といったリーダーとしての役職は誰でも尻込みするものです。そこで、逆転の発想で、そもそもリーダーが必要なのかと考え、リーダーのいないチームとしての活動を模索し、委員会ではなくボランティア制としました。ソーシャルネットワークを利用し、生活の隙間時間を有効に使って意見を出し合い、話を上手くまとめ進めていけています。どうしてもまとまらなければ、今回は、そのイベントは保留といった気楽な気分で活動できています。

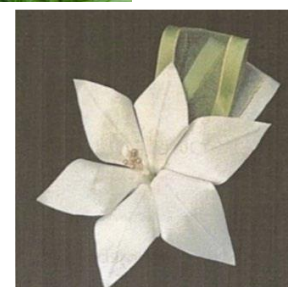
### 4 「今までやってきたから！」では続かない

伝統のあるイベントは、良い点も多くありますが、続けていく・・・という強制、重圧感が年々増していきますね。昨今では、みなさんの生活だけではなく、それを取り巻く環境も変わり、果たしてこのまま続けていけるか不安もあると思います。

前回の発表でご好評いただいた「ユリの育成」は、その後、防災の指導で丘への立入禁止、温暖化による育成の難しさ、炎天下での鑑賞会といった変化に思わぬ苦戦が始まりました。

また、前回の発表で注目された卒業生への「ユリのコサージュのプレゼント」も全てを手作りでは、労力が大きいといった課題が出てきました。

本年度からは、変化に対応した柔軟なやり方で、ユリの育成では、品種を代える、鑑賞会を夕刻にといった発想で、コサージュ(作りは、既製品に一手間手作りのアレンジを加えてオリジナル感をといたやり方で対応しています。



5 「これ喜ぶよね！」では喜んでもらえない

私たちが企画しているイベントは本当に今の子ども達に喜んでもらえているのだろうか。皆さんも、ふと悩んだことがあると思います。そんな時は自分達だけで考えてなくて・・・ほら、答えは子ども達が持ってますよ。

生徒会と話し合いをするなり、時間を有効に使うならアンケートという手もあります。

七夕飾りは好評でした！



今では、子ども達が中心となって校内のペンキ塗りも始まりました！

ユーザー主義・・・といったところでしょうか。

6 リスクはあります

と・・・ここまで良いことばかり、お話してきましたが・・・本当にそうなの？・・・じゃあ、明日からウチのPTAも・・・ちょっと待ってください！リスクはあります

特にボランティア制については、今年から始めてみましたが、想定外の気づきもあり、苦労しています。

### 百合丘高校での新しいPTA活動

#### ボランティア制のリスク

私たちの仕事はここまで・・・というイメージを持つ  
執行部となる本部・先生の負担が大  
実際の活動はやりたい・・・準備物件の見積、会計への申請、購入  
本部でお願いします

#### 話し合いでイベントを決めるリスク

上手いかず・・・本年度は中止も

来年度は 本部・役員なし 会の代表は必要  
取りまとめのボランティアチームは必要



ボランティアという言葉の響きなのでしょうか、お力はお貸しします・・・といった感があります。リーダーがいないので気楽に参加していただけますが、本部や先生のまとめの労力が増えるのは致し方ないところでしょうか。今後は、徐々に本部・役員なしといった体制にしていくのが理想ですが、それに替わる取りまとめボランティアチームは必要かなと考えています。

7 最後に

### 新しいIPTA活動のための一提言

#### 協力してくれる人たちの活動しやすい体制

働きやすい職場と同じ考え方  
負担が偏らないように活動量の均等化  
必要なのはリーダーか

#### 今までやってきた・・・そろそろ見直しが必要では

現状に合ってますか

#### 支援対象の生徒の気持ちになって活動の取捨選択

自分たちだけであくせく考えるのではなく生徒とのコミュニケーション  
答えは子供たちが持っている

#### 試行錯誤してみても、少しずつ理想に近づけば良い

PTA活動は単年度計画、単年度執行・・・上手くいかなければ来年度修正は難しい



最近の私たちの活動から得られたアイデアを紹介することで、みなさんの今後のPTA活動の参考となれば幸いです。

しかしながら、これは、あくまで本校で得られた知見です。みなさんのPTAでは、それぞれに合わせた考え方があると思います。それに、本校も試行錯誤を始めたばかりです。時には予期せぬ方向へ進んでしまうこともあろうかと思いますが、今後も、私たちの活動を暖かく見守っていただき、ご助言等いただければうれしく思います。

最後になりましたが、変化の激しい時代です。みなさんも、一緒に、恐れず、早めに始めましょう。

決して結果を速く出す必要はありません。

求められるのは、「速い」ではなく「早い」です。